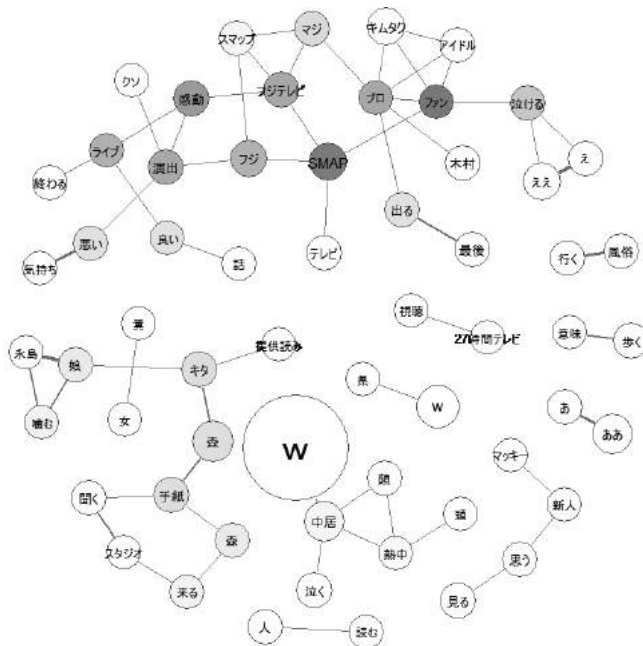




た。「後ろ」に関しては、「可愛い」「子」といった語と共起していた。書き込みでは「右後ろの子可愛い」「後ろのめっちゃ可愛い子は誰だ!」といった観客の一般女性に関する言及がなされていた。「森」に関しては、SMAPの旧メンバー森且行が番組に出演するのではないかという予測が掲示板内でなされており、「森くん来る?」「そうか、ゴールに森くんが居るんだな」といった森且行の登場を期待する投稿がなされていた。また、「森」は共起ネットワークにおいて「バイク」「来る」といった語と関連付けられており、「森くんがバイクで登場 中居くんを乗せて」「森君がバイクで送りどける」など、森が現在オートレーサーとして活躍していることをふまえての妄想で盛り上がる様子もみとれた。「森脇」に関しては、「森脇 wwwww」「森脇キタ————(°▽°)————!!」などといった森脇健児の登場自体がネタになっている様子や、森口博子とともに出演したことで、かつて2人とSMAPが共演した番組『夢がMORI MORI』に関連した書き込み(「夢がモリモリ wwwwwww 森口 w 森脇 wwwww」など)がみられた。そのほか特徴語を含む書き込みとして、フジテレビ本社まで「歩」いて帰るとい企画についての言及や企画を発表した「佐野」アナウンサーに対する批判、過酷な企画によって中居が「死ぬ」のではないか、といった趣旨のものが存在していた。これらのことから、第Ⅳ部は企画元のフジテレビに対するネガティブな評価や、番組の本筋ではない周辺的な情報(観客の一般女性)に対する反応、森且行登場への期待などによって特徴づけられていたことがわかった。

第Ⅴ部は、番組のフィナーレに当たる部分である。このパートでは、旧SMAPメンバーである「森」且行が「SMAP」へ宛てた「手紙」の朗読を聞きながら「フジテレビ」までSMAPが「歩く」という企画の内容を示す語が挙げられる一方で、「感動」「泣く」といった感情を示すような語も多く使用されていた。「森」に関しては、共起ネットワーク(図4)によると「手紙」「キタ」と関連づけられており、投稿者たちが森から手紙が届いていることをある程度予想し、期待していたことが窺える。「SMAP」は「フジ」「フ

図4 共起ネットワーク(第Ⅴ部)





#### ▶ 4. 考 察

本稿の目的は、次の問題について検討することであった。すなわち、テレビ番組の視聴者が2ちゃんねる上で番組について投稿するとき、彼らは番組のどのような点に注目し、書き込みをおこなうのか。その傾向には、Twitter 上での投稿と比較して違いがみられるのだろうか。以下では、ここまでの分析結果を関連研究（志岐，2015）において同番組に対し Twitter 上に投稿されたツイートにみられた特徴と比較しながら、この問題について考察していきたい。

まず頻出語について、2ちゃんねるにおける書き込みでは、メイン司会の SMAP メンバーの名前とともに、SMAP 以外の番組出演者の名前も頻出語の上位に挙がっており、多くのコメントが投稿されていた。一方、関連研究における同番組に対する Twitter への書き込みについての分析では、上位 100 語に入っていた人名は旧メンバーの森を含む SMAP メンバーの名前のみであった（志岐，2015）。

また、2ちゃんねるでは「糞」「クソ」「下手」「ブス」「ハゲ」といった明らかにネガティブな意味合いを持つと判定できる語も上位に挙げられていたが、Twitter ではこのようなネガティブな語は上位に挙がらなかった。

関連研究での Twitter と同様、本研究の2ちゃんねるにおいても書き込み件数が急増するポイントがいくつか存在していたが、Twitter と2ちゃんねるを比較したとき、以下のような共通点および相違点が確認された。まず、中居のアクシデント発生の場面で投稿が急増する点は Twitter と共通していた。相違点としては、2ちゃんねるでは、ざわちんのモノマネメイク、他の出演者によるライブの感想、新人アナの提供読みなど、SMAP がメインで画面上に出ていない箇所でも書き込み件数が急増するポイントが存在していたが、Twitter ではツイートが急増するポイントはすべて SMAP が画面に登場している場面であった点が挙げられる。つまり、2ちゃんねるではメイン司会の SMAP が出ていないときでも多くの投稿がなされるタイミングがあるということが、Twitter と2ちゃんねるの書き込み件数の推移にみられた大きな相違点である。

本稿では、こうした相違点をみる視座として、Twitter と2ちゃんねるそれぞれの投稿内容と、テレビ番組自体の中心的なコンテキスト（文脈）との間の距離感に着眼することが有効であると考えられる。

テレビもメディアでありその発信者である以上、たとえそれが27時間という長時間にわたろうとも、制作者や出演者の間で共通したコンテキスト、言い換えれば番組としての「ねらい」を持っていることは当然である。対象とした当該番組も、キャッチコピーに「武器はテレビ」という言葉を掲げ、ポスターには坊主頭にした SMAP 5 人のメンバーのモノクロ写真を使うという、いわば“戦闘的”なモードを演出していた。この20年を通じて最もテレビを席卷してきたというべき SMAP メンバーを軸として番組の面白さを伝える方向性であったといえる。

分析結果をみると、概ね Twitter 上の書き込みはこの「SMAP の27時間テレビ」という番組のメインのコンテキストに沿うものが多くなっている、つまり書き込み自体も番組の中心的テーマに即したコンテキストを形成している。それに対し、2ちゃんねる上での書き込みは、あえてこの番組のメインのコンテキストを逸らし、番組内の別の周辺的なコンテキストに着眼したり、番組のコンテキストとは別のコンテキストを生成する方向でも書き込みがおこなわれていたとみることができる。

例えば、第Ⅱ部に関して、Twitter における書き込みはライブへの期待と応援を中心としたツイートによって特徴づけられていたが、2ちゃんねるではそのとき画面に登場して

いる人物について多く言及されており、特徴語としてさまざまな出演者の名前（ざわちん、爆笑（問題）、ザキヤマ、太田）が検出されていた。Twitterの投稿では、この番組の主演であるSMAPへのコミットメントが多いのに対し、2ちゃんねるの投稿ではSMAP以外の出演者、細部の登場人物へ意識が向けられていたとみることができる。このような傾向は第IV部でもみられ、ここでは、投稿内容が過酷なサプライズ企画を発表したフジテレビに対する批判によって特徴づけられていた点はTwitter、2ちゃんねるとともに共通していたが、2ちゃんねるでは出演者の後ろに映っている一般女性に対して多数のコメントが投稿されるなど、番組の本筋ではない、いわば周縁的な部分についての書き込みがなされており、このパートを特徴づける語として検出された点がTwitterとは異なっていた。

また第III部は、SMAPのなかでもMC能力に長けると評価され番組進行上も中心であった中居正広が体調を崩すというアクシデントがあり、放送上もインパクトが強かったセクションであるが、この際、Twitter上の書き込みは中居のアクシデントへの反応と応援という内容によって特徴づけられた。一方で、2ちゃんねる上の書き込みはアクシデントへの反応という内容で特徴づけられる点ではTwitterと共通していたが、中居を応援するような書き込みはこの部を特徴づける内容としては検知されなかった。詳細をみると、2ちゃんねるでも中居を応援するような書き込み（「中居頑張れ！もうちょっとや！」など）を一定数確認することはできるものの、統計的にこの部の特徴として検出されるほどの数には達していなかったといえる（ただし、これは表記ゆれの問題である可能性も考えられる<sup>9)</sup>）。さらにいえば、2ちゃんねるにおいて木村のパフォーマンスを高く評価するような書き込みが多かったことはTwitterの投稿内容の分析ではみられなかった特徴である。SMAP5人のメンバーのなかでも、番組上のコンテキストの中核として中居が目目された分、5人のなかではそれとは別のコンテキストを演じた木村に、2ちゃんねるの投稿者たちの視聴の視線が向いたと考えることができる。このことは、第V部においても同様だった。森の手紙に対する反応やフジテレビの批判についての書き込みによって特徴づけられていた点はTwitterと共通しているが、木村のパフォーマンスを高評価する書き込みが多かったことは、2ちゃんねるにのみみられる特徴となっている。

さらに、番組放送終了後の第VI部は、Twitterでは「お疲れ様」「ありがとう」といった感謝やねぎらいを示す内容の投稿によって特徴づけられていたが、2ちゃんねるでは番組やSMAPを高く評価している点は特徴として挙げられたものの、感謝やねぎらいを示す内容は特徴として検出されなかった。また、2ちゃんねるではNHKの別番組についての言及がみられたことも特徴的であった。

このように、Twitterのユーザーは、番組そのものやこの番組の主演であるSMAPメンバーへの言及が大半を占め、応援や感謝のコメントが多く投稿されるなど、番組のメインの流れに積極的にコミットするような書き込みを多くおこなっていたと分析することができる。

一方、2ちゃんねるの投稿者は、番組内の周縁的な要素に着眼したり、番組とは別に投稿者間で盛り上がるなど、番組のメインのコンテキストに距離を置いたり、番組とは別のコンテキストを投稿者間で生成する傾向があるといえることができるだろう。本研究の分析では、他の投稿者に向けたコメントが約7%の割合で確認でき、Twitterよりも頻繁に投稿者同士のコミュニケーションがおこなわれていたといえる<sup>10)</sup>。テレビ番組に対する2ちゃんねるの書き込みには、「投稿者に向けての感想」、「実況（した投稿者）へのねぎらい」、「他の投稿者に対して情報を求める」といった利用者同士のコミュニケーションが活発に行われており、その過程のなかで利用者間に「連帯感」が生まれることが確認されている（山本、2011）。その他の2ちゃんねるに関する研究においても、利用者間で「内集

団」が形成されるという特徴が指摘されている（平井，2007）。一方，本研究の分析においては，投稿者同士のコミュニケーションに関して，山本が指摘したような投稿者へ向けられたコメント，他の投稿者に対して情報を求めるといった形でのコミュニケーションは一定数確認できたものの，実況（した投稿者）へのねぎらいを趣旨とした書き込みはごく少数にとどまっていた<sup>(11)</sup>。このことを鑑みると，山本や平井の研究がおこなわれたときと，5年から10年近く経過した現在とでは，2ちゃんねる上での「互いをねぎらう」という形のコミュニケーションの多寡や投稿者間の「連帯」のありようが変化してきたといえるかもしれない。また，西田（2009）による2ちゃんねるの分析では，番組放送中はユーザー同士のやり取りが少なく，放送終了後に多く議論が交わされていることが報告されていることから，実況板とは別のところで，投稿者同士のより活発なコミュニケーションがおこなわれている可能性も考えられる。

今後，インターネットサービスのさらなる多様化が想定されるなか，本研究の課題はさらに緻密に分析される必要があると考える。一例を挙げれば，2ちゃんねるにおいて番組や出演者に対するネガティブな表現が多く投稿されていたことは上述のとおりであるが，その理由は何かという問題は課題として残されている。それが本当に批判的な意図を持ったものなのか，あるいは主たるコンテキストにコミットすることへのいわば「照れ隠し」の反映なのかといった点は，大衆としての「マス」の心理の現在を捉える上で鍵になってくるように考えられる。

## ●注

1. 番組の放送終了後もインターネット上では当該番組の話題がしばらく継続される可能性があるため，放送終了後5分までの投稿を分析対象に含めることとした。該当する第VI部について，Twitter上の書き込みを分析した関連研究（志岐，2015）では23時59分までに投稿されたものを分析対象としていたが，本研究では20時59分までとしている。これは，分析対象となる書き込みを収集した2ちゃんねるのスレッドが「実況板」であり，放送終了後もコメントが投稿されなくなったためである。よって，本研究では実況板スレッドで収集することのできた20時59分までの書き込みを分析対象としている。
2. KH Coderとは，樋口耕一によって開発されたテキスト型（文章型）データを統計的に分析するためのソフトウェアである。「計量テキスト分析」または「テキストマイニング」の方法に対応している。
3. 基準として，書き込み件数が3分前から200件以上増加したポイントをピックアップしている。
4. 具体的には，名詞，サ変名詞，形容動詞，組織名，人名，タグ，感動詞，動詞，形容詞，形容詞B，名詞Cを分析に使用した。なお，強制抽出した語は「タグ」という品詞で検出される。形容詞Bおよび名詞Cの詳細な説明については，樋口（2014）を参照されたい。
5. ただし「泣く」に関しては，視聴者側の行為を示すものだけでなく，SMAP旧メンバーからの手紙に中居正広が「泣いて」いるように見えるという中居の動向を実況する趣旨の投稿にも多く使用されていた。
6. 共起ネットワークとは，出現パターンの似通った語，すなわち共起の程度が強い語を線で結んだネットワークのことを指す（樋口，2014）。
7. KWIC コンコーダ分析とは，分析対象ファイル内で抽出語がどのように用いられていたかという文脈を探る分析手法である（樋口，2014）。
8. 『NHKスペシャル 調査報告 STAP細胞 不正の深層』2014年7月27日21時00分～21時49分放送（<http://www6.nhk.or.jp/special/detail/index.html?aid=20140727>）。
9. 例えば，今回分析に用いたKH Coderでは「頑張れ」は「頑張る」の活用形として検出され分析に含まれるが，「がんばれ」は平仮名表記であるため分析に含まれない。インターネットの書き込みに関する内容分析の際には，このような表記のゆれにともなう問題について十分に考慮する必要があるだろう。
10. Twitterにおける投稿者同士のコミュニケーションは約1%であった（志岐，2015）。
11. 例えば，第V部および第VI部において，「おつかれ」「お疲れ」という語を含んだ書き込みは30件確認できた。そのうち14件はSMAPに向けられたものであり，明確に他の2ちゃんねる投稿者に向けられたものとして確認できたのは5件のみであった（うち1件は特定の他の投稿者に宛てて投稿されたものである）。

## ●参考文献

- 樋口耕一（2014）社会調査のための計量テキスト分析 内容分析の継承と発展を目指して ナカニシヤ出版。  
平井智尚（2007）2ちゃんねるのコミュニケーションに関する考察 —インターネットと世論形成に関する議論への批判— メディア・コミュニケーション（慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所紀要），57，

163-174.

KH Coder <http://khc.sourceforge.net/>

小島博・執行文子 (2014) テレビとインターネット：番組関連の同時利用の実態を探る：Eダイアリーとデブスインタビューによるケーススタディーの結果から 放送研究と調査, 64(7), 82-100.

三浦基・小林憲一 (2010) “テレビの見方が変わる”—ツイッターの利用動向に関する調査— 放送研究と調査, 60(8), 82-97.

西田善行 (2009) 「視聴者の反応」を分析する—インターネットから見るオーディエンス論 藤田真文・岡井崇之(編)『プロセスが見えるメディア分析入門 コンテンツから日常を問い直す』世界思想社 145-169.

志岐裕子 (2013) インターネット世代のテレビ・コミュニティ—大学生のテレビ視聴 萩原滋 (編)『テレビという記憶 テレビ視聴の社会史』新曜社 158-176.

志岐裕子 (2015) テレビ番組を話題とした Twitter 上のコミュニケーションに関する検討 メディア・コミュニケーション (慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所紀要), 65, 135-148.

志岐裕子・村山陽・藤田結子 (2009) 若者のテレビ視聴とメディア並行利用行動—大学生のオーディエンス・エスノグラフィ調査から— メディア・コミュニケーション (慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所紀要), 59, 131-140.

志岐裕子・渋谷明子・萩原滋 (2012) 若者のテレビ視聴と SNS 利用 日本社会心理学会第 53 回発表論文集, 353.

総務省 (2015) 情報通信白書 平成 27 年版

<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/h27.html> (2016 年 11 月 25 日)

山本明 (2011) インターネット掲示板においてテレビ番組はどのように語られるのか マス・コミュニケーション研究, 78, 149-167.

志岐裕子 (慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所研究員)